

喜内野

中仙町豊川字喜内

文政十一年養蚕振興により野田養蚕舎が駒繫野につくられた。東西一二間

野

南北六間、高さ一丈六尺 養蚕最盛期には 男女一〇〇人以上が集つて活気

を呈した。ここでは蚕紙もつくられた。これを指導したのは 関喜内という

人であつたが この駒繫野の野守りもこれにあやかつて喜内と名を改め 苗

圃もつくつて木の苗を育てた この地を次第に喜内野と呼ぶようになった